

2020.9.23

# NPOフォーラム・だより No.93



NPO法人安房文化遺産フォーラム (代表 愛沢 伸雄)

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX : 0470-22-8271

Eメール awabunka.npo@gmail.com 公式サイト <http://bunka-isan.awa.jp>

会員・寄付募集中! 年会費=正会員 A:10,000円(総会議決権あり)・準会員 B:2,000円・法人 10,000円  
(ゆうちょ銀行口座: 00260-1-97307 名義 NPO法人安房文化遺産フォーラム)

<10月1日は国際コーヒーの日、10月9日はウガンダ独立の日>

## ◎ 10月はウガンダコーヒー月間

～1杯のコーヒーがウガンダの子どもたちを力づけます!～

旧安房南高校に始まったウガンダ支援交流は、安房西高校に引き継がれ、多様な市民活動との協働により26年目となりました。自然栽培で高品質のウガンダコーヒーを流通し、支援の輪を広げるチャリティ・キャンペーンも3年目となり、26店舗が賛同していただきました。ご愛飲による皆様の支援金は、NGOウガンダ意識向上協会(スチュアート・センパラ代表)を通じて現地の**安房南洋裁学校**の運営をはじめ、貧困な子どもたちの教育・生活補助やコミュニティづくりと、安房のまちづくり活動などに役立てられます。



### ☆安房地域の26店舗が協賛、ウガンダ支援の社会貢献活動を実施中!

☕ 喫茶 ● 豆、粉販売 ☕ 焙煎

<b>館山焙煎工房カフェパリス</b> 館山市北条 1708 アーク内 TEL 0470-23-2322 ☕ ● ☕	<b>プロワ珈琲焙煎所</b> 館山市宮城 78-3 TEL 0470-22-5300 ● ☕	<b>茶房はたやま</b> 館山市北条 1807 TEL 0470-22-8730 ● ☕	<b>Tea&amp;Sweets ロジェ・ルージュ</b> 館山市八幡 467-1 TEL 0470-29-7611 ● ☕
<b>道の駅とみうら枇杷倶楽部</b> 南房総市富浦町青木 123-1 TEL 0470-33-4611 ● ☕	<b>城山公園 里見茶屋</b> 館山市館山 236 TEL 0470-29-5100 ● ☕	<b>TRAYCLE Market&amp;Coffee</b> 館山市館山 95-70 小高記念館 TEL 0470-49-4688 ☕	<b>茶房カフェ・ノワール</b> 館山市北条 1313-4 TEL 0470-24-4476 ☕
<b>あぢまあ家 再活(リサイクル)家具&amp;カフェ</b> 館山市北条 1355-5 TEL 0470-29-7706 ☕	<b>パン工房ばんばん</b> 館山市小原 151-7 TEL 0470-20-5225 ☕	<b>中国料理 芳喜楼</b> 館山市山本 195-1 TEL 0470-23-7211 ☕	<b>ギャラリー&amp;スペース MOMO</b> 南房総市岩系 1093 TEL 0470-28-4621 ☕
<b>イチノヤト コーヒー</b> 南房総市千倉町瀬戸 2252-6 TEL 0470-28-4306 ☕	<b>絆&amp;リゾ 南房総 樹の香</b> 南房総市富浦町多田良 1212 TEL 0470-33-3811 ☕	<b>モンフルニエ</b> 館山市北条 1136-1 TEL 0470-23-7940 ● ☕	<b>富崎ベーカリー</b> 館山市相浜 254 TEL 0470-28-0221 ● ☕
<b>田中惣一商店</b> 館山市湊 417-5 田中金物店 TEL 0470-22-2088 ● ☕	<b>館山中村屋 館山駅前店</b> 館山市北条 1882 TEL 0470-23-2133 ● ☕	<b>館山中村屋 バイパス店</b> 館山市北条 692-2 TEL 0470-23-1656 ● ☕	<b>須藤牧場アイスカフェ CowBoy</b> 館山市安東 337 TEL 0470-22-9732 ● ☕
<b>シークロップ ダイビングスクール</b> 館山市坂田 634 TEL 0470-29-1575 ● ☕	<b>ランドリー&amp;カフェ MAKANA</b> 館山市正木 1723-1 TEL 0470-27-3110 ● ☕	<b>スープのよろずや花 花の谷クニック</b> 南房総市千倉町白子 2446 TEL 090-8565-2446 ● ☕	
<b>ギャラリー&amp;ショップ 海猫堂</b> 南房総市千倉町千田 1051 潮風王国 TEL 0470-43-1039 ● ☕	<b>安房暮らしの研究所</b> 南房総市千倉町平磯 1031-1 TEL 0470-40-3850 ● ☕	<b>館山まるごと博物館 ショップ [通信販売]</b> <a href="http://awa-ecom.jp/online-shop">http://awa-ecom.jp/online-shop</a> 安房文化遺産フォーラムでは通販サイトを新たに設けました。直接申込みもOKです。 <b>*ウガンダコーヒー(豆・粉) ●</b> ・100g=550円 ・200g=1,000円 ・500g=2,100円 <b>*報告集「安房の高校生によるウガンダ支援・交流 23年のあゆみ」 1,000円</b> 書籍や青木繁Tシャツ等も扱っています。	



## \*旧安房南高校 木造校舎 見学会中止

NPO が県教委より委託を受け、10/25 予定であった県有形指定文化財の木造校舎の一般公開は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。昨年の台風被害に続き、とても残念ですが、地域社会の安全と健康のためご理解ください。



### 安房高等女学校木造校舎を愛する会

#### \*旧安房南高校 草刈り・掃除のお知らせ

10月18日(日) 8:00~9:30

掃除・草刈りの環境整備を行います。燃料・替刃を用意しますので、お手伝いをお願いします。豪雨の時は翌週に延期します。

#### \*かきた婦人の村 草刈り

10月7日(水) 8:40~12:00

燃料・替刃・弁当付

ウガンダ支援交流は婦人保護施設「かきた婦人の村」創設者・深津文雄牧師の紹介から始まりました。こちらのお手伝いもよろしく願います。

【会員募集】 年会費 1,000円

ゆうちょ銀行振替払込 00270-4-87431

名義:安房高等女学校木造校舎を愛する会

館山市社会安全課と市民の **第26回安房地域母親大会 Part1**  
**コロナ禍における台風災害対策の意見交換会** 2020. 8. 30

令和元年房総半島台風で未曾有の被害を受けた安房地域。さらに、新型コロナウイルスの拡大という災難に見舞われ、厳しい状況が続いています。このような状況下で、再び台風シーズンを迎えるにあたり、私たちはどのようなことに気をつけながら災害に備え、危機を乗り越えていったらいいのでしょうか。

その留意点や対策について、館山市総合政策部社会安全課危機管理室の方にお話を伺い、市民の疑問や不安あるいは要望などについて意見交換をおこないました。大変有意義な内容であり、多くの市民に情報共有するために、録画を YouTube で公開しています。「安房地域母親大会」と動画検索するか、右の QR コードを読み込んでご覧ください。あらかじめ危険に備え、共に命を守り、安全なまちづくりを進めましょう。



台風災害から1年 **布良崎神社神輿復興委員会**  
**布良崎神社で復興イベント** 2020. 9. 26

青木繁『海の幸』誕生のイメージソースといわれる自慢の神輿が損壊し、拝殿は傾いた布良崎神社。修復予算は約 4,000 万円。新型コロナの影響で基金集めは低迷中。

全国の支援者への感謝をこめて、もう一度奮起しようと復興イベントを企画。威勢のいい木遣り唄や、「安房節」「布良音頭」の踊り、子どもたちの復興ソング♪などを披露し、Facebook で中継配信します。

「布良崎神社神輿復興」で動画

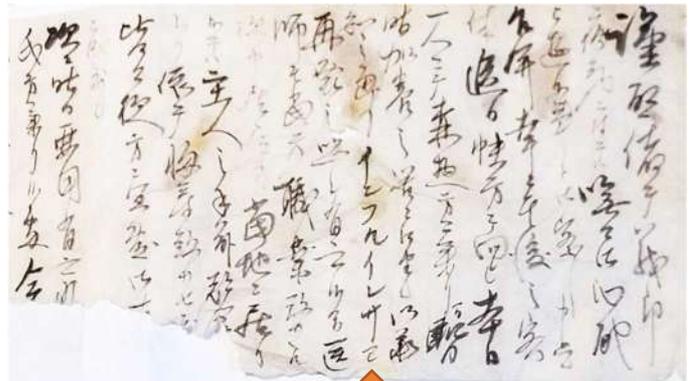
検索するか、右の QR コードからご覧ください。さらなるご支援をよろしくお願ひします。



【Report】古文書の整理調査が進んでいます。

房総アワビ移民研究所 (鈴木政和所長)

明治期に渡米し活躍したアワビ漁師のリーダー(弟)・小谷仲治郎の旧宅で、襖の裏張りから発見した古文書。書簡や、海鮮問屋を営んでいた実家「金澤屋」の大福帳など 100 数十片。台風水害からレスキューし調査研究を再開。古文字を解読し、筆跡や内容でつなぎ合わせ、知られざる歴史が明らかになりつつあります！



謹啓借テ義郎  
 病氣ニ付テハ、嘔々御  
 被遊候事ト御察し申上候、  
 乍併幸ニ其後之容  
 体追日快方ニ向ヒ、本日  
 一人ニテ森惣方ニ参リ而、暫  
 時加養之旨ニ御座候、御承  
 知之通り、インフルエンサ  
 再発之恐レ有之候間、医  
 師モ当方職業致サ、ル  
 様申居候得共、当地ニ居リ  
 候テハ主人之手前都合「  
 シク、依テ移房致サセ度「  
 皆々様方ニ宜敷御「  
 被成度候、  
 次ニ、昨日要用有之、川「  
 氏方へ参リ候処、全「  
 根本及ビ近村ニ壳「  
 店無之候間、請「  
 テハ如何ニ候哉ト御相「  
 兎ニ角国元「  
 上確答致スベキ間、「  
 御一考被遊度候、「  
 壳葉其地之品「  
 より差送り「  
 右ニ付資金ハ「  
 尚又川名商店「  
 シテ出願之手「 (以下欠

日本でインフルエンザが流行したのは1890(明治23)年冬から翌年春のことで、流行性感冒(流感)として知られる。小谷仲治郎の弟・義郎は1880(明治13)年生まれで、罹患したのは10歳と考えられる。

愛沢伸雄代表の病後報告

昨夏の心臓血管バイパス手術に続き、頸椎靭帯後縦骨化症という病気が発覚し、今夏7月9日に首の手術をしました。皆様からご心配の声をいただき、ありがとうございます。難病指定のため完治とはなりません、自宅療養で大事をとりながら、無理のない範囲で調査活動を続けています。引き続きNPO運営をご支援いただけますよう、よろしくお願いいたします。

【結婚報告】河辺 改め 粕谷智美

このたび9月2日に入籍しました。大学時代にウガンダ支援交流の卒論を書いて会員になって10年、ウガンダにも2回行きました。NPO専従として3年目となり、去年は台風で大変でしたが、多くの皆様に支えられ、いろいろと学ばせていただきました。これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

## ～台風被害とスペイン風邪のパンデミック～

1917（大正6）年10月1日に台風が襲来した。「東京湾台風」と呼ばれ、千葉県各市川・船橋・浦安や東京都の深川・築地・品川など沿岸部では大変な高潮水害が起きている。

『安房南高校75年のあゆみ』によると、  
<午前一時頃より午前四時ころにかけて台風襲来す。体操室屋根が吹きとばされ、寄宿舎は大きく傾くなど多大の被害を受く。郡内の被害状況は死者・行方不明者41人、家屋全壊923戸、学校全壊8を数えた。寄宿舎生は荒れ狂う強風のなか、暗闇のなかで帯と帯とに手をかけあって、安全な場所へと命がけで移動し、幸いにも負傷者を出さずに済んだ> という。

奇しくも、台風災禍の翌1918（大正7）年秋から、未知のウィルス蔓延によるパンデミック（世界的感染拡大）が始まっている。不思議なほど現代社会に近似している。

いわゆる「スペイン風邪」として知られるスペイン・インフルエンザであり、当時の世界人口20億人のうち5億人以上が感染し、死者数は2,000万人とも4,000万人ともいわれる。

日本国内では、1921（大正10）年春までに3つの流行の波があり、大正期の人口5,500万人のうち半数近い2,500万人が感染し、推定38万人が亡くなっている。1918（大正7）年秋から翌年3月にかけての第一波、1919（大正8）年12月から翌年3月にかけての第二波、そして1920（大正9）年12月から翌年3月にかけての第三波である。

先人たちはどのように災禍と向き合い、対処してきたのだろうか。未曾有の出来事であった割に、世界史的にも取り上げられることはあまりない。地域での伝承や資料もほとんど聞かないが、安房南高校の資料から、安房高等女学校における感染者や対策の様子をみることができる。

これらの記録から先人の姿を学び、私たちが今の危機的状況を乗り越え、未来に教訓を残していきたいと願っている。

安房南高校の『創立60周年記念誌』や『75年のあゆみ』に掲載された年表には、

<大正7年11月20日流行感冒で欠席者多し。20日より27日まで臨時休校とする>

<大正9年1月19日流行感冒予防のためマスクを使用>

<1月23日流行感冒予防ワクチンの接種を行う>などと記されている。この貴重な記述は、大正期の校友会雑誌や日誌などの資料からまとめられると。

1919（大正8）年12月発行の校友会雑誌『10周年記念号』のなかに、「流行性感冒の猖獗（しょうけつ）」という記事が掲載され、第一波での安房高女の罹患概要が報告されている。猖獗とは「悪い物事がはびこり、勢いを増すこと、猛威をふるうこと」の意であり、当時「スペイン・インフルエンザ」に関わる新聞見出しの定番であった。



<大正七年の秋に入るや我國各地方に悪性の感冒流行し死者頗多し。此病たるや當に我國のみならず歐洲を始め各國に流行するが故に世界感冒(せいかいぜ)の名さへ負はせて之を恐るゝこと一方ならず。本縣にては先づ東京に近き方面より入り来り次第に各地に蔓延し猖獗を極めたり。我房州はその侵入比較的遅く十月末頃より患者の續出を見るに至りしが本校にては十一月月上旬まで格別にそれらしき患者もあざりしに、十一日の運動會過ぎて後、生徒の缺席著しく増加し其缺席者は流行性感冒に罹りしもの多數を占めたり。是に於て極力豫防を圖り衛生上の注意怠らざりしか

其傳染力は非常に迅速にして十一月十三日には  
缺席生徒十名なりしが十八日には五十六名とな  
り、翌十九日には生徒六十四名職員二名の缺席を  
見るに至り、かくては全校生徒職員に及ぼさんと  
無きにあらず又社會衛生上より見るも適宜の豫  
防策を講ずべきの必要に迫りしかば十一月二十  
日午後より斷然臨時休校する事に決したり

一週間の休校中に職員が校内を消毒し、再開後し  
ばらく欠席者が多く続いたものの、1月ぐらいで平  
常に戻ったという。その間、精勤者が著しく少なくな  
ったうえに、満足な授業もできなかつたので、年  
度の成績に多大な影響があったと述べられている。  
ただ、生徒には1名の死亡もなく不幸中の幸いであ  
ったと報告では締めくくられている。

当時の新聞は、10月下旬になって世界各地の大  
流行の状況を記事にし、「世界的感冒」を伝えるとと  
もに本格的に東京や地方の流行、学校や軍隊での罹  
患の広がりやを報道していった。そのなかで行政当局  
も動き出し、安房高女資料には <北条警察署から  
流行性感冒に罹りたる生徒幾人ありやと電話にて  
尋ね越したり> <郡役所ヨリ流行性感冒ニツキテ  
ノ注意要項通牒シ越シタルニツキ生徒一般へ告知  
セリ> という記載をみることができる。

未知の感染症であるインフルエンザには確固た  
る予防法や治療法がなかつた。瞬く間に「スペイン・  
インフルエンザ」は全国に広がり、第一波では11月  
に死亡者数のピークを迎えたが、年末には小康状態  
となり、千葉県では罹患者が約18万人、死亡者は  
640余名となった。

1919(大正8)年12月から翌年3月にかけて第  
二波がはじまり、安房高女の新年最初の職員会では  
「流行性感冒豫防注意」を協議して、翌日には生徒  
向けに校医の講話「流行性感冒豫防ノ注意」を開催  
した。1月16日には <流行性感冒豫防ノ為メ生徒  
ニ成ルベク『マスク』ヲ使用スル様> にという呼び  
かけから、すぐに <生徒ハ口覆器ヲ必ず使用スルコ  
トヲ命ズ> という強い伝達となっていった。この時  
期、欠席が20余名(うち感冒10名前後)と増え、  
1月23日には校医が生徒や職員、その家族に第1  
回目の<豫防ワクチンノ注射>、5日後には第2回  
目の注射が実施された。第3回目は<家庭ノ意見モ  
聞カシメテ志望者ノミ>としている。

日誌で注目されるのが <教場内ニテハ特別ノ授  
業ノ外必ず呼吸保護ヲ使用セシムル如ク注意スル  
コト> とあり、冬場であっても教室の換気を促し  
ていることである。また、学校行事などについては、  
<新聞記者ヨリ学藝会及父兄会ノコトニツキ問合  
セ来リタレバ流行性感冒ノ為ニ公開セズ單ニ学校  
内ニテ開ク旨ヲ行フ> とし、大勢の人が集まる機  
会を制限している。

罹患が下火になったのか、2月16日になると  
<まずクヲ学校内ニテ強制的ニ使用スルコトヲ止  
ムル旨ヲ生徒ニ通告ス 但シ汽車通学生ハ車内ニ  
テハ必ず使用セシム> とマスク使用を緩和したが、  
3月に入ると <生徒中ニ流行感冒ニ罹レルモノ増  
加シ本日ノ欠席三十三名ニ達セリ> とあり、再び  
増加したなかで、学校長は午前授業を短縮するたけ  
でなく午後は休業とし、急遽 <マスクヲ用ヒ含漱  
ヲ勵行スルコト>を指示したのである。含漱とは  
「うがい」である。その後には生徒の欠席が少なくな  
ったようで、日誌には「流行性感冒」に関わる事項  
がない。罹患が急速に下火となり、安房高女の第二  
波は収束し年度が終了したと思われる。

1920(大正9)年1月、東京では「スペイン・イ  
ンフルエンザ」の第二波が猛威を振るい、死者数が  
激増して「地獄の3週間」と呼ばれた。新聞紙上には  
予防や治療の記事があふれたものの、基本的な対  
策は「マスク」「うがい」「手洗い」「人ごみを避ける」  
以外にはなかつた。

安房高女でも、急性期には休校しながら、感染拡  
大を防ぐため、「密閉・密集・密接」を避けるよう伝  
達指導したのであろう。こうして、2年半におよぶ  
嵐のようなパンデミックは過ぎ去った。

文責：愛沢伸雄 (旧安房南高校世界史教員)  
NPO法人安房文化遺産フォーラム 代表



口覆器(マスク)に関する記事 東京新聞 1920(大正9)年1月